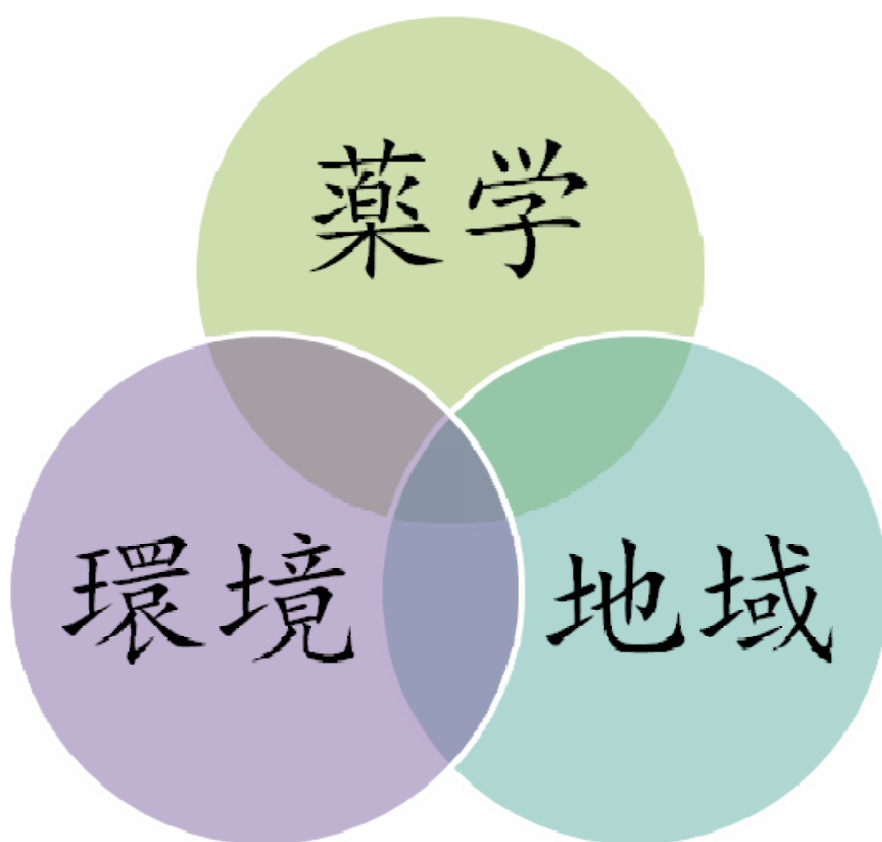


平成 21 年度 教育 GP 英国研修プログラム

目指せ！ エコファーマ
英国に学ぶ地域連携のパートナーシップ
プログラム・ハンドブック



2009/8/31 ~ 9/6

熊本大学薬学部

企画 NPO 法人環境ネットワークくまもと

協力 九州環境パートナーシップオフィス

プログラムについて

「環境」に関する社会的課題や経済活動についての知見と感性を有する薬学人材の育成に向けた視察プログラムとして英国での研修プログラムを企画。本プログラムをとおして、環境・持続可能な社会づくりにおける、薬剤師をはじめとする医療・健康保健分野の専門家の役割とその育成に焦点をあて、地域におけるパートナーシップ、持続可能な地域づくりにおける役割と多様な主体による社会のしくみづくりについて知見を広げる。

視察研修グループメンバー

	氏名	所属
講師	宮北 隆志 MIYAKITA TAKASHI	NPO 法人 環境ネットワーク熊本 代表理事 (熊本学園大学 教授)
引率	白崎 哲哉 SHIRASAKI TETSUYA	熊本大学大学院 医学薬学研究部 准教授
学生	** ** *****	熊本大学薬学部薬学科 4 年生
学生	** ** *****	熊本大学薬学部薬学科 4 年生
学生	** *** ****	熊本大学薬学部薬学科 3 年生
学生	** ** *****	熊本大学薬学部薬学科 3 年生
学生	** ** *****	環境ネットワークくまもと (福岡大学法学部 3 年生、一般参加)
事務局	澤 克彦 SAWA KATSUHIKO	九州環境パートナーシップオフィス コーディネーター (NPO 法人コミネット協会 専務理事)
	園田 敬子 SONODA KEIKO	NPO 法人 環境ネットワークくまもと 理事

日程表

	主な訪問都市など	宿泊	食事		
			朝	昼	夕
8月31日	福岡→インチョン →ロンドン→シェフィールド	シェフィールド Jurys Inn Sheffield Hotel 44-114-291 2222	×	機	機
9月1日	シェフィールド		○	○	○
9月2日	シェフィールド		○	○	○
9月3日	シェフィールド →ピーク国立公園 宿泊は分泊	Four Seasons B&B 44-1433-620655 Swiss House B&B 44-1433-621098	○	○	○
9月4日	ピーク国立公園→ロンドン	Novotel London St Pancras 44-20-76669000	○	各自	○
9月5日	ロンドン→インチョン	機内泊	○	各自	機
9月6日	インチョン→福岡		機	機	×

移動中の食事については機内サービスなどで対応します。列車での移動中、空港での乗継時は各自で対応します。

日本からイギリスへの電話のかけかた

(国際電話会社番号)+0110(国際電話識別番号)+44(イギリスの国番号)+相手先の電話番号(市外局番の最初の0はとる。)

国際電話会社の番号

001(KDDI)

0033(NTTコミュニケーションズ)

0041(ソフトバンクテレコム)

005345(au携帯)

009130(NTTドコモ携帯)

0046(ソフトバンク携帯)

現地の気候

シェフィールド市の位置するイングランド中北部は気温 20 度前後、やや肌寒さのある気候です。また乾燥した気候になります。

健康管理について

英国との時差は 9 時間あります。視察行程中は、移動も多く乾燥した気候もあり、水分補給を意識的にする必要があります。

また、往復のフライトでは機内の乾燥も強く、マスクの着用やのどスプレーなどを使ったケアが効果的です。

体調不良を感じた場合は、速やかに引率者・事務局まで申し出てください。

日程プログラム

	プログラム	宿泊	備考
Day 1	8 / 31 (月) 残暑の熊本から、初秋のイギリスへ		
06:20	熊本交通センター集合 (途中乗車可)	Jurys Inn Sheffield Hotel 119 Eyre Street Sheffield S1 4QW UK Telephone +44-114-291-2222 Fax +44-114-291-2211 (3 連泊します)	o 通町筋 06:41 o 味噌天神 06:45 o 水前寺公園前 06:47 o 県庁前 06:50 o 帯山中学校前 06:54 o 西原 06:57 o 松の本 07:01
06:35	熊本交通センター発		
08:44	福岡空港国際線ターミナル着 搭乗手続き		
10:30	福岡発 KE 788		
11:55	ソウル インチョン着 トランジット		
	昼食各自 (離陸後機内食が出ます)		
13:25	ソウル インチョン発 KE 907 11 時間 50 分のフライトです。		
17:15	ロンドン ヒースロー着、英国入国		
	Heathrow Connect (空港快速) にて移動 17:56 空港ターミナル駅発 18:24 Paddington 着 18:26 空港ターミナル駅発 18:54 Paddington 着		
	地下鉄もしくはタクシーにて LONDON ST PANCRAS 駅へ移動。		
	各自夕食		
19:55	LONDON ST PANCRAS 発		
22:34	SHEFFIELD 着 現地コーディネーター小山さんと合流、ホテルへ		
研修日誌 発 見 驚 き 学 び			

Day 2 9月1日(火) 英国の地域戦略パートナーシップ基礎講座			
10:00	Sheffield First Health and Wellbeing Partnership 対応者 Sheffield 市役所 Kieron Williams、Natarie Pugh Town Hall, Sheffield S1 2HH Tel 0114-273-5869 http://www.sheffieldfirst.org.uk/our-partnerships/health-and-wellbeing-partnership シェフィールド市の地域戦略パートナーシップである「Sheffield First」、その中の「Health and Wellbeing」分野のパートナーシップ政策についてのヒアリング。 Community Assembly との関連についても調査。 	同上	
14:00	Sheffield Health and Wellbeing Consortium 対応者 Neil Coulson Norfolk House, Stafford Lane, Sheffield S2 5HR Tel: 01246 417725 Mob: 07913 907016 http://sheffieldwellbeing.org.uk/about-us.html ヘルス関係のボランティア団体が集まって一緒にサービス契約をとるコンソーシアム。地域戦略パートナーシップに基づく具体的な事業連合体。		
研修日誌 発見 驚き 学び			

Day 3 9月2日（水） 英国の地域パートナーシップ実践活動団体の訪問			
10:00	Voluntary Action Sheffield 対応者 Ms Jasmine Warwick The Circle, 33 Rockingham Lane, Sheffield S1 4FW Tel 0114-253- 6647 http://www.vas.org.uk/ ボランティアセクターの中間支援団体。サードセクターに対する中間支援の取組みについてヒアリング。	同上	
14:00	ZEST 対応者 Mr. Matt Dean Zest Centre, 18Upperthorpe, Sheffield S6 3NA Tel 0114-270-2040/1 http://www.zestcommunity.co.uk/ 市内の健康福祉、保健などをテーマとした社会的企業。		
研修日誌 発見 驚き 学び			

Day 4 9月3日(木) 地域の拠点としての薬局、大学と地域の連携			
09:00	Wicker Pharmacy 対応者 Martin Bennett 55-57 Wicker, Sheffield. S3 8HT Tel 0114 272 7676 http://www.wicker.co.uk/pharmacy/ 1952年開業の薬局。		ピーク国立公園内の の民宿 (B&B) 2 か所 (隣接) に分 泊します。(シェ フィールド市内か ら 30 分程度) Four Seasons B&B Spital House, How Lane, Castleton S33 8WJ 01433 620 655 www.4seasonsbbs.co.uk/ Swiss House B&B (学生) How Lane, Castleton S33 8WJ 01433 01433621098 www.swiss-house.co.uk/index.html
11:00	Sheffield Hallam University 対応者 Dr Angela Mary Tod Centre for Health and Social Care Research Montgomery House, 32 Collegiate Crescent Sheffield S10 2BP Tel 0114-225567551/53 http://research.shu.ac.uk/publichealthhub/ LAA (地域・政府間協定) に基づく大学の役割について。 また学生向けの環境教育についてもヒアリング予定。		
12:30	大学にて昼食。Joanne Saunders (PCT) 氏とのミーティング		
14:30	Richard Crosby (PCT) 氏とのミーティング		
16:00	ミニバスを借り、田舎へ移動		
17:00	B & B チェックイン		
研修日誌 発見 驚き 学び			

Day 5 9 / 4 (金) シェフィールドからロンドンへ			
9:00	ピーク国立公園を通過して SHEFFIELD 駅へ 途中で周辺散策、道中フリーディスカッション		
11:00	SHEFFIELD 駅着		
11:27	SHEFFIELD 発		
	車内にて各自昼食		
13:34	LONDON ST PANCRAS 着 ホテルへチェックイン 澤野さんと合流 ロンドン視察 1 チェルシー薬草園 薬草園の専属ガイドによる解説を受けます。 http://www.chelseaphysicgarden.co.uk/ チェルシー水道会社について http://en.wikipedia.org/wiki/Chelsea_Waterworks_Company	Novotel London St Pancras (ノブテルロンドンセントパンクラス) 電話番号: (+44)20/76669000 100 - 110 Euston Road - NW1 2AJ LONDON	
			
	科学博物館に所蔵されている 1750 年頃の水道会社の様子		
17:00	ロンドン市内散策		
研修日誌 発見 驚き 学び			

Day 6 9 / 5 (土) ロンドン自由視察			
	この日は、1 日フロントに荷物を預けておきます。		
午前	ロンドン視察 2 ホテル近くのウェルカム医療博物館見学 http://www.wellcomecollection.org/index.htm 科学博物館（4 階・5 階が医療系の展示） 自然史博物館 などの見学	機内泊	
午後	ロンドン市内自由視察 現地コーディネーターからの見どころ情報 ・バッキンガム宮殿の中庭（夏季限定公開） ・大英博物館 など		
17:30	ホテル集合（荷物の受け取り） パディントン駅へ移動（地下鉄 or タクシー） Heathrow Connect（空港快速）にてロンドン ヒースロー空港へ移動 18:33 Paddington 発 18:59 空港ターミナル駅着 19:03 Paddington 発 19:29 空港ターミナル駅着		
19:30	搭乗手続き 各自夕食（ただし、機内食が離陸後出されます）		
21:25	ロンドン ヒースロー発 KE908		
研修日誌 発 見 驚 き 学 び			

Day 7 9 / 6 (日) 帰国			
16:15	ソウル インチョン着 トランジット 各自夕食（機内で軽食が出ます）		
18:30	ソウル インチョン発 KE781		
19:50	福岡着 入国手続き、解散 20:32 国際線ターミナル発 22:23 交通センター着 20:42 国際線ターミナル発 22:33 交通センター着		
研修のまとめ			

現地コーディネーター

小山善彦（おやま よしひこ 英国グラウンドワーク本部ジャパンユニットダイレクター）

バーミンガム大学大学院都市・地域研究センター修了。社団法人農村生活総合研究センターを経て、1987年から英国グラウンドワーク本部研究員。学会誌や交流事業を通して、日本にグラウンドワーク運動を紹介。1996年1月より、英国グラウンドワーク本部に設立されたジャパンユニットのダイレクター。英国バーミンガム大学ジャパンセンターの副所長も務める。1952年生まれ。

澤野 多加史（さわの たかし）

英国在住のフラワーアレンジメント専門家。南九州大学園芸学科卒業後、渡英。日本文化としての華道をもとに、花卉園芸分野での事業に取り組む。

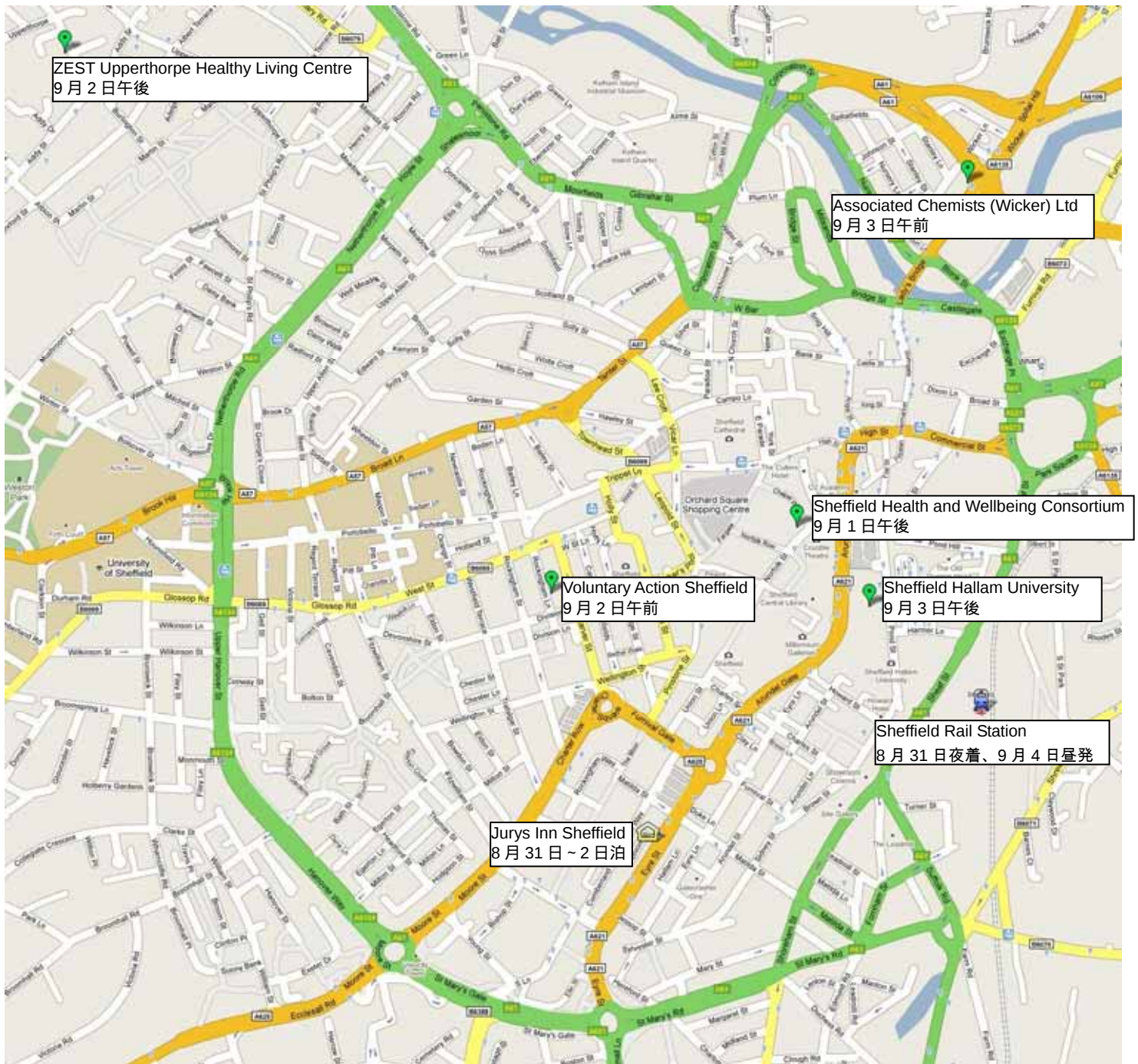
訪問都市 シェフィールドについて

シェフィールド市

シェフィールド (Sheffield) は英国のイングランド中部の工業都市である。英国第5の都市と呼ばれ産業革命のときには鉄鋼業で発展し、今は主要産業は金属加工業でナイフやフォークなど刃物産業が盛んである。近隣のリーズやマンチェスターと並んで産業革命以来、英国工業の中心地である。シェフィールド市郊外にはピーク国立公園があり、工業都市ではあるが自然も楽染むことが出来る。またシェフィールド大学は4人のノーベル賞受賞者を輩出している名門大学である。



シェフィールド市内での訪問先マップ



用語集

英国政府報告書 「地方自治体の未来：10 年後のビジョン」

「持続可能なコミュニティ：住民と地域の繁栄のために 副首相府による 5 カ年計画」

（財）自治体国際化協会 CLAIR REPORT NUMBER 281 (Jun 15,2006)より抜粋

持続可能なコミュニティ（Sustainable Communities）：

持続可能なコミュニティは、人々が、現在も将来においても、暮らし、働きたいと願う場所であり、現在と将来の住民のニーズを充足し、環境に対し敏感で、高い生活の質を保証する。安全で、排除がなく、よく計画されたコミュニティが建設され、運営されており、全ての人々に、機会の均等を保証し良好なサービスを提供する。

暮らしやすさ（Liveability）：

暮らしやすさとは、公共空間と地域環境の質を向上させ、持続可能なものにすることによって、生活の質を向上させることである。その意味としては、よく計画され、設計され、管理された公園やオープン・スペースを創ることや犯罪事件や犯罪の脅威、反社会的行動に立ち向かうことによって、公共空間の社会的利用を促進していくことも含まれる。暮らしやすさは、「より清潔、安全、緑豊かなコミュニティ・プログラム」を通じて政府各省庁に伝達されているところである。

地域合意（Local Area Agreements (LAAs)）：

地域合意とは、地方自治体と広域圏における政府事務所とによって合意された限られた数のアウトカムについて、その達成を可能にするために、政府、地方自治体、地方自治体の主要なパートナーとの間で締結されるものである。その目指すところは、資金の流れを合理化し、監査や監視の手続を簡素化し、官僚主義を減らしていくことである。地域合意の試行は、2005 年 4 月から 21 の地域で始まり、2006 年 4 月には、さらに、40 地域が加わる予定である。

近隣社会再生基金（Neighbourhood Renewal Fund）：

当該基金では、最も疲弊したコミュニティを対象に、5 年間にわたり 19 億ポンドの資金を上乗せで提供する。

コア都市グループ（Core Cities Group）：

「都市、広域圏、競争（Cities, Regions and Competitiveness）」に関する合同ワーキング・グループは、2002 年 4 月に、副首相府が設立したものである。当該グループの焦点となっているのは、広域圏の競争のために、あるいは、広域圏の競争に対して行う事業について、その重要な要素を特定し分析することである。コア都市グループは現在、イングランドの 8 つの主要「広域圏都市」、バーミンガム、ブリストル、リーズ、マンチェスター、ニューカッスル、ノッティンガム、シェフィールドにより構成されている。個々の都市が、持続可能な経済成長のための長期ビジョンと広域圏の競争

力向上をどうすればよいかということについて、個別計画説明書を策定している(詳細は、www.corecities.com 参照)。

グラウンドワーク (Groundwork) :

グラウンドワーク・トラスト連盟 (The Federation of Groundwork Trusts) は、英国全体で運営されている環境再生に関するチャリティである。当該連盟は、トラストの全国団体であるグラウンドワークUK(Groundwork UK)の支援を受ける個別トラストによって構成されている。グラウンドワークの目的とする所は、環境に対するアクションを地域住民や企業、地方自治体、その他の機関と共同して進めることを通じて、持続可能なコミュニティを創りあげることである。副首相府は、疲弊した地域における環境再生に関してグラウンドワークが支援する際のスポンサーとなっている。

地域開発公社 (Regional Development Agencies(RDAs)) :

地域開発公社は、イングランドにおける持続可能な経済的发展の促進を目的に政府が創設したものである。その主な業務は、イングランドの広域圏が相対的な経済パフォーマンスを向上させることを支援したり、広域圏内及び広域圏間における社会的・経済的不均衡を少なくしたりすることである。